



こんにちは!

気象庁です!

4月号
平成20年
(2008年)



異常天候早期警戒情報の提供開始

平成15年の冷夏や昨年の記録的な猛暑などの異常天候は、しばしば農作物への被害や熱中症の多発など、社会・経済に大きな影響を与えます。気象庁は、このような異常天候による災害や被害の防止・軽減を目的として、概ね1週先から2週先の1週間内に極端な低温または高温となる可能性が高まった場合に、その出現確率とともに異常天候による影響に対する注意を呼びかける「異常天候早期警戒情報」の提供を、平成20年3月より開始しました。

異常天候早期警戒情報は、発表日の5日後から14日後までの間の1週間を対象として、関東甲信地方などの地方予報区（下図参照）ごとに、平均の7日間平均気温が平年よりも「かなり低い※」または「かなり高い※」となる確率が30%以上になると予測される場合に発表します。原則として、火曜日に基準に達した場合に発表します。情報文は、気象電文として関係機関や地方自治体、気象事業者へ配信するほか、気象庁ホームページにも掲載します。

この異常天候早期警戒情報を使いやすいものとして提供するため、異常天候についての情報ニーズの大きい農業やエネルギー分野の機関に試行的に情報を提供し、発表形態や内容について検討を行ってきました。この試行期間中、平成19年7月中旬の北日本の低温についての情報を提供したところ、ユーザーからは水稻の冷害対策に有用であるとの評価をいただきました。また、電力需給計画の作成においても、冷暖房等に伴う電力消費の見通しに活用できることがわかりました。今後、この情報は、熱中症対策、農業や畜産における高温対策など、異常天候の影響を受ける様々な分野で広く活用されることが期待されます。

ホーム > 防災気象情報 > 予報予報

異常天候早期警戒情報

その他の情報

地方 全国(地図表示)

印刷

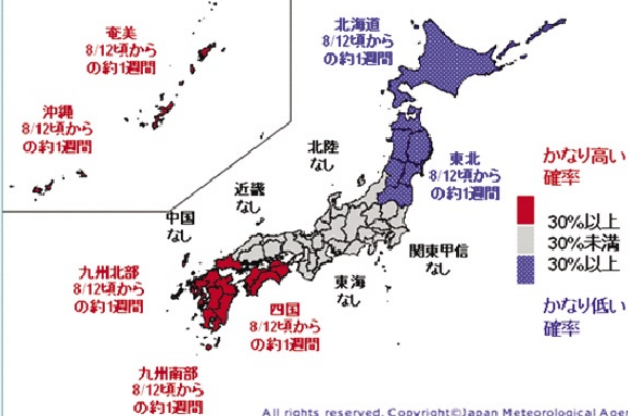
説明へ

全国(地図表示)

平均気温 平成19年8月7日発表

情報の対象期間: 8月12日～8月21日

「かなり高い」または「かなり低い」確率が30%以上の地域
地域名の下に示す期間は、30%以上と予測される期間
地図上をクリックすると、詳しい情報がご覧いただけます。



All rights reserved, Copyright © Japan Meteorological Agency

気象庁ホームページにおける
地図表示例（上図）

低温に関する異常天候早期警戒情報（〇〇地方）

平成〇〇年8月7日14時30分

〇〇管区气象台 発表

要早期警戒

警戒期間 8月12日頃からの約1週間

対象地域 東北地方

警戒事項 かなりの低温（7日平均地域平年差－2.6℃以下）

確率 30%以上

8月12日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり低い確率が30%以上となっています。農作物の管理等に注意して下さい。また、今後の気象情報に注意して下さい。なお、本情報は8月12日から8月21日までを検討対象としています。

情報文例

※かなり高い、かなり低いとは、10年に1回発生する程度の状況です。



5月の気象

●●● 平地は春でも山は冬、ひょうや遅霜の被害に注意 ●●●

「風薫る5月」と言われるように、平地の5月は初夏の陽気となりますが、この時期に山へお出かけになる方や農業を営まれる方は変わりやすい天候に注意が必要です。

○平地は春でも山は冬

高い山は平地に比べて気温が低いということは常識ですが、さてどのくらい低いのでしょうか。気温は標高が100m上がるごとに平均して約0.6℃低くなります。このことから、1000mの山では平地に比べ約6℃低く、3000mの山では約18℃も低いことが分かります。結構寒いですね。この時期、発達した低気圧が通過すると山の天気は大荒れとなり、その後は一時的に強い寒気が流れ込んで厳冬の寒さを経験することもあります。山へお出かけの方は、十分な準備を整えるとともに、天気予報・気象情報を確認してください。

○ひょうや遅霜の被害に注意

5月の強い日差しで地面が温められているところへ上空に強い寒気が流れ込むと、大気の状態が不安定となって積乱雲が発達し雷雨や時に大粒のひょうが降ります。ひょうは、積乱雲の中で小さな氷の粒が上昇と下降を繰り返し、他の氷の粒や水滴と一緒にって大きく成長します。このため、ひょうには水滴が凍ったために透明なものや、氷の粒が集合して白く見えるものなどいろいろな種類があります（右写真）。

この時期のひょうは生育を始めた農作物にとって大敵で、毎年多くの農業被害が発生しており、5月は1年で最もひょうの被害が多い月となっています。

ひょうは強い積乱雲に伴って発生し、そのほとんどは雷を伴います。気象庁の発表する雷注意報や気象情報ではひょうが降る可能性が大きい場合には、その旨を記述していますのでご注意ください。

一方、5月頃には移動性高気圧に覆われて晴れた結果、夜間に放射冷却現象によって冷え込みが強まり霜が降りることがあります。初夏の頃発生する霜を晩霜（おそじも）と呼び、ひょうの場合と同様に大きな被害が生じることがあります。晩霜による被害の発生が予想されるときには、各地の気象台は霜注意報を発表しますのでご利用ください。



2000年5月24日に千葉県に降ったピンポン玉大のひょう
降ひょう直後に大粒のひょうを集め写したもの。
左下は1円玉。